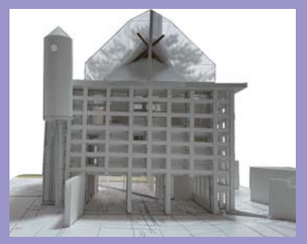
2024年（令和6年）謹賀新年　元旦

縄文フラクタルハウス０１
（仮称）補陀落渡海庵（ふだらくとかいあん）
（パーソナル・テーマパーク住居）



新年あけましておめでとうございます。
恒例となりました、昨年の活動報告と、未来のビジョンからくる本年の抱負をお伝え致します。
おかげ様で（株）井口浩フィフス・ワールド・アーキテクツは、設立28周年を、NPO法人ミレニアムシティは、活動開始24周年を迎えることができました。これもひとえに、皆様のご理解、ご協力のたまものであることはいうまでもありません。あらためて、御礼申し上げます。

『縄文フラクタル』がいよいよ動き出す

数年前から、コミットしていた『縄文フラクタル』が、様々なかたちで動き始めます。
ひとつは昨年から設計を依頼されていた『縄文フラクタル』をテーマとした『（仮称）補陀落渡海庵（ふだらくとかいあん）』（パーソナル・テーマパーク住居）が、本年に着工する予定で、竣工は、来年2025年を予定しています。（左の写真をご覧ください。）
ふたつめは、『縄文フラクタル』の考え方を解説する書籍を現在執筆中で、本年中に出版する予定です。
みっつめは、『縄文フラクタル』の考え方から導き出された新しい集合住宅のプロトタイプ『（仮称）縄文・カタカムナ・マンション』を実際に創り出すプロジェクトが動きだします。（裏面をご覧ください。）
これは、現実の計画敷地候補を、ミレニアムシティのメンバーと共に楽しく視察しながら、入居者や出資先や協力者等を募集していき、実現可能なコミュニティや企画案を、つくりだしていく方法です。段階的に進めることになる予定ですが、たとえば、メタバースなどの仮想空間にまず、プロジェクトをたち上げ、バーチャルな空間を設計し、それをモデルハウス的に体験できるようなことも、考案中です。

『（仮称）縄文・カタカムナ・マンション』とは（裏面参照）

このプロジェクトの大概要としては、縄文の環状集落のように、マンション配置を、円形・渦巻き状に配置し、中央の円形広場の地下部分等に、お墓（永代供養付き）や温泉施設やジムといった各種共用施設を設けると共に、介護サービスや、ホテルサービスやアクティビティ・プログラム等のソフトシステムも充実させることにより、空間的にも、制度的にも、人間環境的にも、安心・安全・快適な・生きがいのある人生環境をつくりだすものです。
空間的には、極大の宇宙や、地球と、極小の原子は、共に、中心を円運動・渦巻き運動して相似象（フラクタル）となっており、縄文集落や竪穴式住居や、盆踊りも同様の相似象であったことが、縄文時代も含めた3万年以上も、人間同志の戦争や対人武器が全くなかった、奇跡的な、大調和社会を、生んだ大きな要因のひとつではないかという考え方が『縄文フラクタル』という仮説です。
しかも、縄文集落では、最も重要な位置の中心の円形広場に、祖先のお墓があり、日常的に、祖先の霊と一緒に生活していたことも、平和と調和につながっていたのではないでしょうか？
日本でも世界でも祖霊信仰が宗教のもとになっているといわれています。
しかし、やがて、日本では墓は村はずれにおいやられ、近世以降はおばけのでる、きもだめしの場となってしまいました。
祖先との連続性を切りとられて、分断されてしまってきています。あげくには、『墓じまい』という問題も起きています。後を継ぐ者がいないため、墓石がゴミとなってしまっているのです。
きっと、このことも、現代の諸問題の根本原因のひとつになっていると思われます。
また、日本では、現在、未婚化や少子化等から、孤立化、孤独死の問題等が、将来に不安をなげかけることから、現在の「今」をよりよく生きられない状況をつくりだしています。将来への不安から、自暴自棄や、金だけ、自分だけ、になってしまっているのではないでしょうか？
さらに、孤立化は、寿命をかなり短くすることが科学的にも証明されています。

重要なことは、将来への不安を、とり除き、かわりに夢と希望をつくりだし、そこから今を生きることでしょう。
このことは、2500年前の仏陀や、イエスキリストの時から、いわれていることです。
そこでこれらの問題を払拭するべく、空間的にも制度的にも人間環境的にも、安心・安全・快適な・生きがいのある人生環境を創りだすべく、『（仮称）縄文・カタカムナ・マンション』を推進していく予定です。（詳細は、本年中に出版予定の書籍『縄文フラクタル』をぜひご覧下さい）縄文が、日本と世界を救っていく可能性です。
このプロジェクトにご興味のある方は、お気軽にお問い合わせいただき、ご一緒に、この超画期的なプロジェクトを推進していきましょう

文責：井口　浩

本年の抱負

- その１　己れの天命を知り、粛々と実行に移す。
- その２　祈り、それに基づいた行動を行う。
  感謝し、それに基づいた還元を行う。
- その３　『縄文フラクタル』をテーマとした『（仮称）補陀落渡海庵（ふだらくとかいあん）』（パーソナル・テーマパーク住居）を着工し、推進する。
- その４　『縄文フラクタル』の考え方を解説する書籍を出版する。
- その５　『縄文フラクタル』の考え方から導き出された、新しい集合住宅のプロトタイプ『（仮称）縄文・カタカムナ・マンション』を実際につくりだすプロジェクトを様々に推進する。
- その６　本年は、満64歳となることから、歳の数と同数の64回懸垂するトレーニングを続ける。（笑）

■２０８０年（１２０歳）までに達成していること

- １２０歳まで心身共に健康で活動し、人生１２０歳時代のモデルを自ら示している。
  120歳時点で懸垂を歳と同数回行って、ギネス認定されている。（笑）
- 『（仮称）縄文・カタカムナ・マンション』が日本中、世界中にでき上り、拡大流布していることにより、地球全体が、大調和の世界となり、世界恒久平和と自他共の恒久幸福を達成している、ミロクの世となっている。

ミレニアムシティ大学の活動報告＜2023年（令和5年）＞

第 80 回（no347）夢と未来を語る新年会 atYMC

あさひミレニアムシティからの初日の出

第 81 回（no348）吉祥寺ミレニアムシティ炎会キックオフ

第 82 回（no349）自然栽培味噌づくり atYMC

第 83 回（no350）野草の酵素づくり、無農薬味噌づくり at くりミレ

韓国からの視察団来訪

第 85 回（no352）新しい災害対応体験会 at あさミレ

第 86 回（no353）ユメミライカフェ 8 周年記念イベント atYMC

第 87 回（no354）砂浴ビーチデトックス

第 88 回（no355）飯岡花火大会復活 at あさミレ

第 89 回（no356）夏の水浴びクリアリング &ヴィーガン BBQ

第 90 回（no357）世界塗り替えイベント

第 91 回（no358）稲刈り体験、満月祭

縄文定食用ドングリ拾い

第 92 回（no359）ミレニアムシティ 24 周年記念祭

■2023年（令和5年）のメディア掲載リスト
・「住まいとでんき」１２月号　カムフラージュハウスシリーズ
・王様のブランチ（TBS１１月１１日放送）オンブラージュ

掲載累計271回

■(株)井口浩フィフス・ワールド・アーキテクツ
代表取締役　井口　浩
メンバー：　武藤　大吾　井口　道代
一級建築士事務所登録
東京都知事第40342号
住所：　〒177-0044
東京都練馬区上石神井1-11-12
TEL/FAX: 03-3929-7108/03-3929-7188
E-mail：info@fifthworld.jp
URL：https://www.fifthworld.jp
メールとホームページのアドレスが昨年から新しくなりました。

■（株）ミレニアムシティ（旧くりもとミレニアムシティ有限会社）
代表取締役　井口　浩
住所：〒177-0044
東京都練馬区上石神井1-11-12
TEL/FAX: 03-6279-7808（代表）
E-mail：info@millenniumcity.co.jp
URL：http://www.millenniumcity.co.jp
電話番号が昨年から新しくなりました。

■特定非営利活動法人(NPO法人)ミレニアムシティ
理事長　井口　浩　常任理事　井口　道代
住所：〒177-0044
東京都練馬区上石神井1-11-12(東京事務局)
TEL/FAX:03-3929-4663/03-3929-7188
URL: http://www.npo-mc.com

——安心・安全・快適な・生きがいのある人生環境をご一緒に創り出しましょう！！——

『縄文・カタカムナ・マンション』に住もう！！

JOU－MON

＜温泉施設・ジム、お墓（永代供養付き）、介護サービス等付き＞

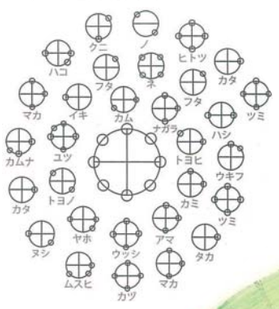
『（仮称）縄文・カタカムナ・マンション』とは

このプロジェクトの大概要としては、縄文の環状集落のように、マンション配置を、円形・渦巻き状に配置し、中央の円形広場の地下部分等に、お墓（永代供養付き）や温泉施設やジムといった各種共用施設を設けると共に、介護サービスや、ホテルサービスやアクティビティ・プログラム等のソフトシステムも充実させることにより、空間的にも、制度的にも、人間環境的にも、安心・安全・快適な・生きがいのある人生環境をつくりだすものです。
空間的には、極大の宇宙や、地球と、極小の原子は、共に、中心を円運動・渦巻き運動して相似象（フラクタル）となっており、縄文集落や竪穴式住居や、盆踊りも同様の相似象であったことが、縄文時代も含めた3万年以上も、人間同志の戦争や対人武器が全くなかった、奇跡的な、大調和社会を、生んだ大きな要因のひとつではないかという考え方が『縄文フラクタル』という仮説です。
しかも、縄文集落では、最も重要な位置の中心の円形広場に、祖先のお墓があり、日常的に、祖先の霊と一緒に生活していたことも、平和と調和につながっていたのではないでしょうか？
日本でも世界でも祖霊信仰が宗教のもとになっているといわれています。
しかし、やがて、日本では墓は村はずれにおいやられ、近世以降はおばけのでる、きもだめしの場となってしまいました。
祖先との連続性を切りとられて、分断されてしまってきています。あげくには、『墓じまい』という問題も起きています。後を継ぐ者がいないため、墓石がゴミとなってしまっているのです。
きっと、このことも、現代の諸問題の根本原因のひとつになっていると思われます。
また、日本では、現在、未婚化や少子化等から、孤立化、孤独死の問題等が、将来に不安をなげかけることから、現在の「今」をよりよく生きられない状況をつくりだしています。将来への不安から、自暴自棄や、金だけ、自分だけ、になってしまっているのではないでしょうか？
さらに、孤立化は、寿命をかなり短くすることが科学的にも証明されています。

重要なことは、将来への不安を、とり除き、かわりに夢と希望をつくりだし、そこから今を生きることでしょう。
このことは、2500年前の仏陀や、イエスキリストの時から、いわれていることです。

そこでこれらの問題を払拭するべく、空間的にも制度的にも人間環境的にも、安心・安全・快適な・生きがいのある人生環境を創りだすべく、『（仮称）縄文・カタカムナ・マンション』を推進していく予定です。（詳細は、本年中に出版予定の書籍『縄文フラクタル』をぜひご覧下さい）縄文が日本と世界を救っていく可能性です。
このプロジェクトにご興味のある方は、お気軽にお問い合わせいただき、ご一緒に、この超画期的なプロジェクトを推進していきましょう

万物相似象
【第17首】カムナガラ トヨヒカミ アマウツシ ヤホ トヨノユツイキ フタネフタハシ ウキフツミ タカマカカヅ ムスヒヌシ カタカムナ マカハコク ニノ ヒトツカタツミ

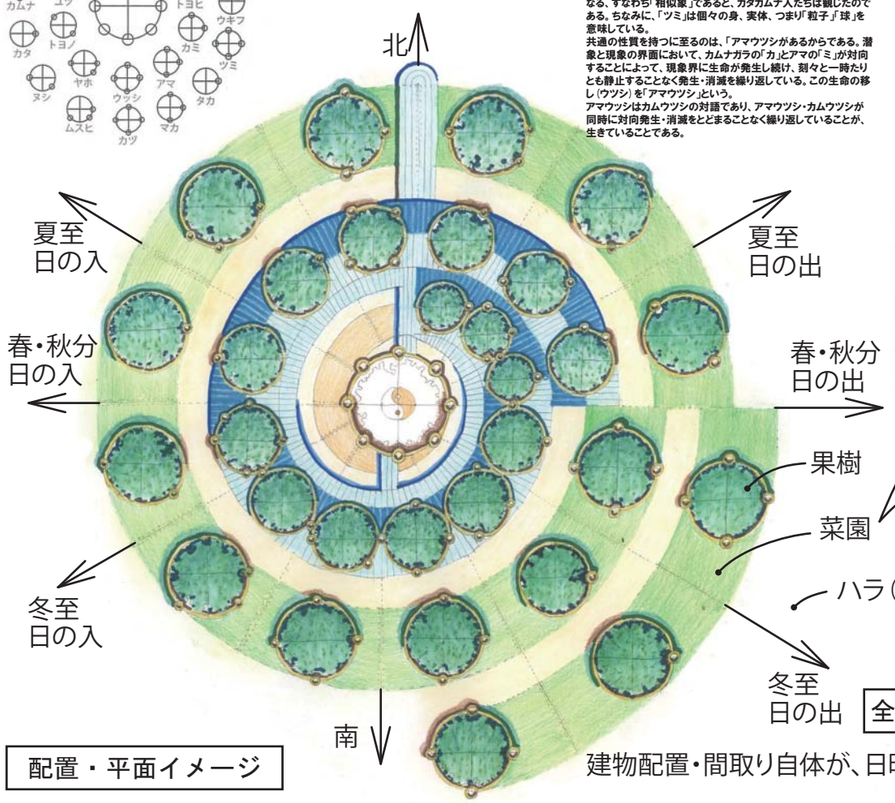


大意

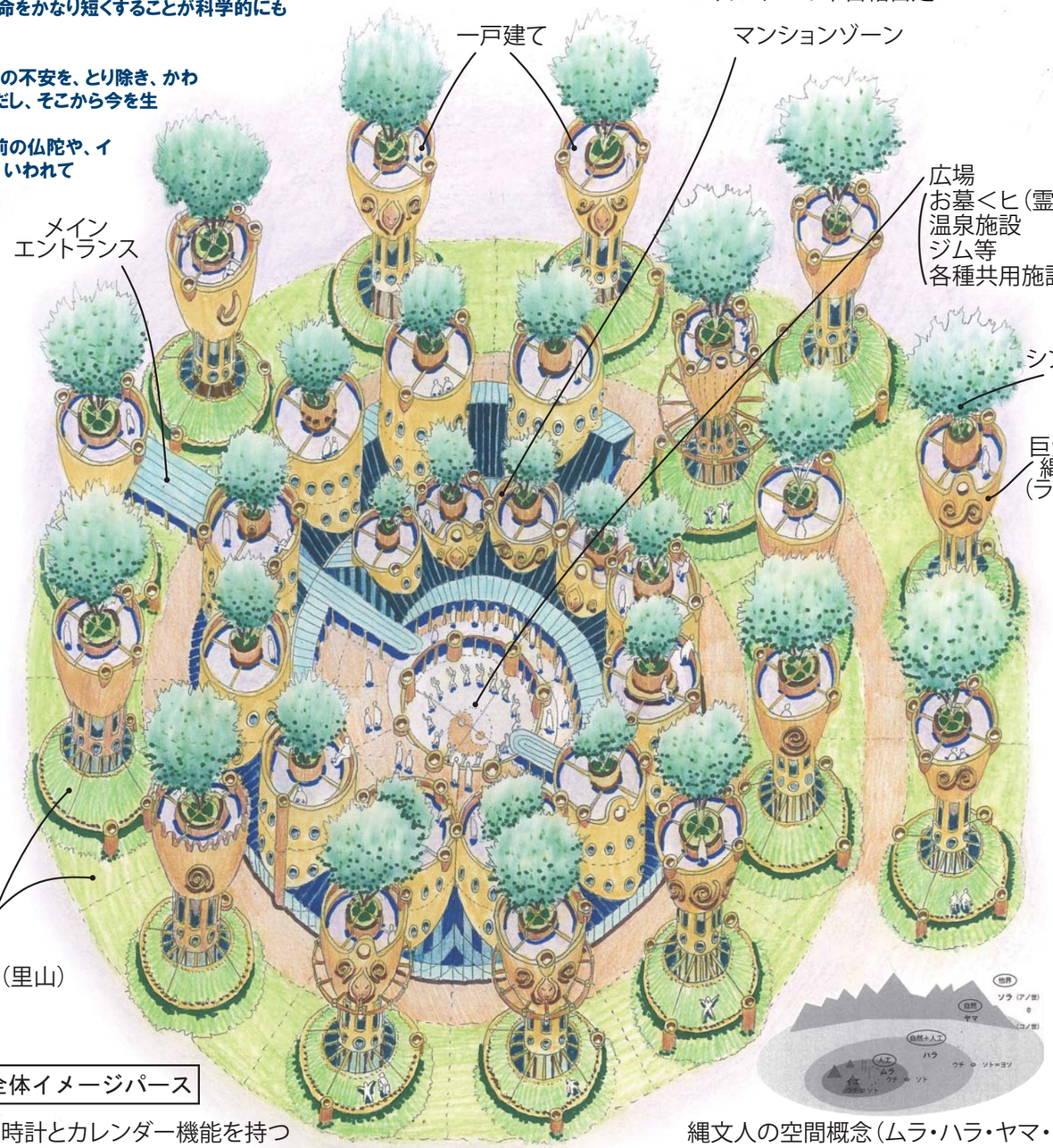
目には見えない物理ながら、統合・四相性を持った万物万象は、大元の根源の本質が、元始まりの現象粒子に極限まで移し示（アマウツシ）される。そして現象物に変遷して発生する個々の微粒子が、生命の2つの根として潜象・現象の2つの正反に示される。
潜象と現象の界面から発生して、増える個々の本質（ヒ）は、カ（根源）から独立したカムナであり、原子・分子の粒子となる。個々の粒子を発生する潜象の主は、根元とから六方環境に進行発生するカタカムナである。
マとカによって、正反対向が繰り返されてつくられたものがマカハコクニのサトリであり、大元が重合して根源から個々に独立し、その大元はヒから始まってマカハコクニ、オホトマヒコ、ヒメオホケツヒメと総称されるように、その性質を受け継いでいる万物万象は、すべて相似象である。

解説

万物万象は、すべて相似象となっていることを述べている首である。
相似象とは互いに似通っているという意味で、天体の運行パターンが極微世界のウズ巻き運動と共通であることはよく知られているが、現象界の森羅万象はすべて相似象（形）であり、相似象が天然自然の相（スガタ）であるというのが、カタカムナのサトリである。
ここでは、宇宙の万物万象の根源（トヨヒ）はカミである、と述べている。もちろんカミは「神」のことを示しているのではなく、カ（あらゆる現象を発現させるチカラ）とミ（本源的な本質）であり、本源的な本質とは「粒子」のことである。
万物万象（トヨ）は、すべて「カミ」から「アマウツシ」されて発生した「マカハコクニ」が変遷（ノ）して生まれた「ヒトツカタツミ」に生じたものである、という。
「ヒトツカタ」とは、ヒトツ（1つ）のカタ（型に通じる）、「カ」（潜象のチカラ）から「タ」（独立）したものという意味で、すべて1つから生まれたものは共通の性質（重合・統合性、四相性）を持つようになる、すなわち「相似象」であると、カタカムナ人たちは観じたのである。ちなみに、「ツミ」は個々の身、実体、つまり「粒子」「球」を意味している。
共通の性質を持つに至るのは、「アマウツシがあるからである。潜象と現象の界面において、カムナガラの「カ」とアマの「ミ」が対向することによって、現象界に生命が発生し続け、刻々と一時たりとも静止することなく発生・消滅を繰り返している。この生命の移し（ウツシ）を「アマウツシ」という。
アマウツシはカムウツシの対語であり、アマウツシ・カムウツシが同時に対向発生・消滅をとどまることなく繰り返していることが、生きていることである。

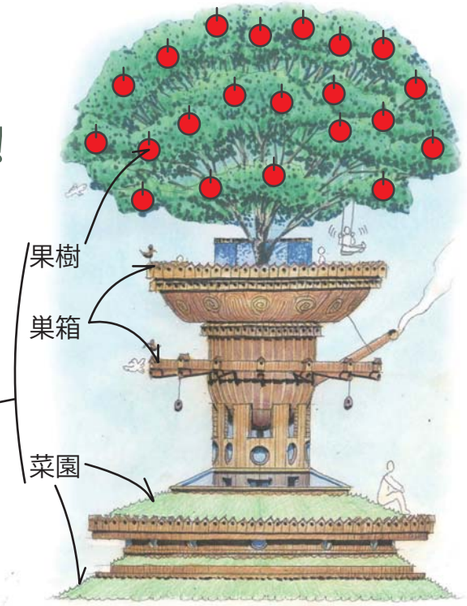


配置・平面イメージ

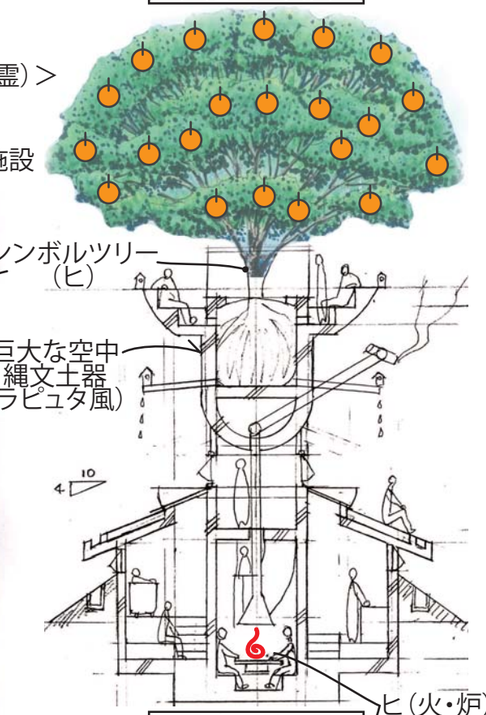


全体イメージパース

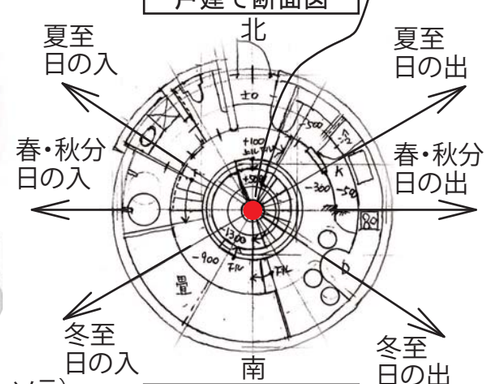
建物配置・間取り自体が、日時計とカレンダー機能を持つ



戸建て立面図



戸建て断面図



戸建て平面図

縄文人の空間概念（ムラ・ハラ・ヤマ・ソラ）